

保育計画成果報告書

法人名等	学校法人くるみ学園	
施設名	中城わらび保育園	
報告者（役職）	溜川 良次（管理者）	
住所・連絡先	沖縄県中頭郡中城村字南上原 1066-10	
	☎	098-895-5155
	E-mail	warabi-n@kurumi-kodomoen.jp

○タイトル（保育計画）

うーまくー育て（“やんちゃ”育て）エンジェルリング

○主な助成備品

組み合わせ遊具（遊具名：「ジョイントパーク Pao」 1～3歳児用の複合遊具）

1. 保育計画策定の目的

- (1) 子どもが気安く外に出たがる（出やすい）魅力的な環境をつくる。
- (2) 遊具によってバランス感覚と運動量を増やす。
- (3) 長時間保育の園児が、夕方においても安全な環境で外遊びができるようになり、心身の安定につなげる。
- (4) 遊具設置を機に園庭整備に弾みをつける。



整備前の園庭

2. 具体的な実施内容

- (1) 補助対象の遊具設置に付帯する前工事を行い、次の園庭整備を行った＝写真①。
 - ①園庭約 3/4 に人工芝を張った。
 - ②保育室と園庭とを結ぶため保育室の掃き出し窓にウッドデッキを設けた。
- (2) 組み合わせ遊具「ジョイントパーク Pao（GP303）」を設置した＝写真②。



①整備中の園庭



②整備後の園庭に
設置された遊具

3. その成果と評価

- (1) 保育室と園庭とが一体化し当該遊具を含めて回遊性のある空間が広がった「うーまくー（やんちゃ）」育てと、子どもが遊び回ることを「エンジェルリング」と名付けたタイトルどおりの環境が整った＝写真③。保育室からウッドデッキを経て園庭（人口芝）に出ることができるようになった（写真



④)。外用の靴に履き替えなくても支障がないため、幼児も保育者も園庭に出やすくなり、

裸足で保育室から園庭・遊具に直行することができている。

(2) 遊具の設置のために人口芝とウッドデッキの設置と園庭整備を進めた。デッキには転落防止用のフェンスを設けた。その理由は、暖かい季節のときは「掃き出し窓を開け離れたままの開放的で安心できる保育室」を期待したものだった。しかし、コロナ禍で充



分な換気が求められることとなった今、それに対応しやすい結果も得られた。

- (3) 迎えが遅くなる子どもは保護者が迎えにくるまで保育室での生活になりがちであった。

「(1)」のと通りの環境が整ったため、陽が高い限りは外遊びが可能となり、外遊びを楽しみながら時を過ごせるようになった（写真⑤は、2歳児が遊んでいる光景）。

- (4) 当該遊具の構造が子ども一人くぐり抜ける空間が作られているためか、自然に順番を意識できるようになっている。階段部は段差の低い色違いでできていて1～5の数字が刻まれているので、「1、2、3…」と声に出しながら昇る子もみられる。遊びの中で規範性を学んだり、数字に親しむ機会が生まれた。

- (5) 子どもの楽しく遊ぶ姿が見える化し、保護者の安心感が増した。コロナ禍の中、感染防止のために保護者は玄関口での対応を余儀なくされている（以前は送迎時に保育室に入ることができたため、子どもが園内で過ごす姿を見ることができた）。今回の整備場所は玄関口から覗い



⑤夕方の一時、外遊びを楽しむ子ども

玄関からの窓



で見ることができる場所であったことから、迎えにきた保護者が楽しく遊ぶ子どもの姿を見ることができる嬉しさを味わっている。

4. 今後の課題と展望

- (1) 自発的遊び場所としての園庭（遊具）の活用
開放的な自由空間を物理的に創出する目的は達成されたので、その活用面での課題に取り組む必要がある。

具体的には、子どもが遊びたいときに遊べるような運用をして、はじめて子どもによる自発的な遊びが実現する。現在は「保育者が園庭（遊具）で遊ぶとき」を決めているため、“子ども自身の自由意志による遊び”と言い切ることができていない。事故やケガを防止するために、保育者が遊びの設定にある程度計画性をもつことは否定できないが、今回整備された「遊び環境」の利用を通して、当該遊具を使ってどう遊びが広がっていくか、そして、子どもの遊びとはどうあるべきものかを保育者が深く学び活用していく材料を得ることにもなった。子どもの遊びが広がると共に保育の質が高まっていくことに期待したい。

なお、本稿末尾に「遊びの広がり」と認められる子どもの様子を写真で示した。

(2) 未整備部分の園庭整備

今回の整備は裸足のまま庭に出て遊具で遊ぶことができる環境をつくるために、遊具設置と人口芝を園庭の大部分に敷いた。しかし、「泥遊び」の類ができる場所を確保したいという思いがあったため、畑地を除き約7～8㎡の泥地を残した。この空地利用として砂場や築山などを当初想定したが、小さくても貴重な泥地であるので、その利用については整備部分の活用状況も考え合わせて引き続き検討していきたい（当初は、ウッドデッキと遊具とを渡り廊下のようなものでつなぐイメージを計画したが、園庭も狭く子どもの遊びの自由度を阻害したり、段差による転倒事故などからの危険回避から、今後も廊下設置は見合わせることにしたい）。

以上

別紙：遊びの広がり



最初は無関心なそぶりのAちゃん。

午前中に散歩にでかけた公園で、先生は後で使って遊ぼうと「松ぼっくり」を子ども達と拾って帰ってきたのです。その日の午後、先生は松ぼっくりをみんなに見せて反応をみました。

やがて、松ぼっくりを黄色いバケツに入れて運んで滑り台に。



Aちゃん、実は上からバケツごと転がしてみたかったようです。
松ぼっくりはバケツから飛び出してバラバラに広がってしまいました。



すると、他の子ども達が広がった松ぼっくりに何やら関心を寄せて集まってきたのです。
さて、Aちゃんは…



Aちゃん